

ソロモン諸島で咲かせたソフトボールの「花」、普及の最前線

文・写真／井上 栄（青年海外協力協会）

第2回

仲間がほしい



いのうえ・さかえ／1980年12月11日生まれ。愛知県出身。小学校からソフトボールを始め、大学までプレー。卒業後は愛知県公立中学校に体育教諭として勤務。2007年に退職し、青年海外協力隊に参加してシバブ共和国（07年6月～08年3月）、ソロモン諸島（08年8～09年12月及び10年4月～11年3月）に赴任。帰国後は、星橋名古屋中での勤務を経て、公社・青年海外協力協会に所属して駒ヶ根青年海外協力隊訓練所に勤務。



ソロモン諸島 Solomon Islands
 首都：ホニアラ（ガダルカナル島）
 人口：約53万人
 言語：英語、ビシン語
 面積：2万8,900km²（岩手県の約2倍）
 大小約100の島々からなる英連邦の一国で、4000もの集落が点在している。地理的にオーストラリアとの関係が深く、日本ともいろいろな面で友好を結んでいる。国民の大半が農業・漁業に従事しているが、近年は天然資源の開発で注目を浴びる。

今月からは、少しずつソロモンでの普及について紹介していきます。

皆さんがソフトボールをしようと思うとき、何を必要としますか？ グラブなどの用具、ソフトボールをするための場所、そして何よりも一緒にプレーをする仲間ではないでしょうか。

ソロモン諸島に赴任して2カ月、「ソフトボールをしよう」と決めたものの、私には、一人の仲間もいませんでした。青年海外協力隊員は、それぞれに配属先があり、「どこで、誰のために、何をしてほしいのか」という途上国からの要望があります。この要望を実現するための手段・方法を隊員は模索し、挑戦します。私の役目は、ソロモンで唯一の教員養成学校で体育指導をし、体育を普及することでした。つまり、私が「ソフトボールをしよう」と決意した時点では、「ソフトボールをする」とは、ソロモンからの要望ではなく、あくまで私の余暇活動としてのことでした。そのため

「一人の仲間もいない」という状況だったので。

ただ、仲間はいないものの配属先である学校は、グラウンドや学校が少しだけ保有していたソフトボール用具の使用を快諾してくれました。もちろん、授業でもソフトボールを教えることになりました。

学校の協力のおかげで、私に残されたミッションは「仲間を集める」こと。ソロモンに来てから、一度もソフトボールをしていない人を見ることがありませんでした。日本のようにインターネットが普及しているわけでもないのに、ネットで情報を集めることもできません。

郷に入っては郷に従え。街を歩いていると、街の何方かにたぐさんの張り紙がされている場所があることに気づきました。貼られているのは、「イベント情報」「車譲ります」といった広告等です。この方法ならお金もかからないし、自分にもできると思い、早速、ピラを製作。そし

て、完成したピラをソロモンで一軒しかないアイスクリーム屋の壁とソロモンで一番大きい中央市場に貼り付けた。

常夏の国のソロモンでたった一軒しかない、休日には長蛇の列ができるアイスクリーム屋。ここなら、アイスを食べながら、ピラを誰かが見てくれるかもしれないと思えました。そのピラには、毎週土曜日の午後2時から練習をすること、性別も年齢も経験も関係なく、誰でも参加可能なことを書きました。

そうして迎えた初めての土曜日。誰か来てくれるのか不安を抱えながら、自分が日本から持っていた用具と学校から借りた用具を持ってグラウンドへ行きました。1時間が経過。誰も来



最初の呼びかけに応じて集まってくれた5人



その5人の中には、かつてソロモン代表選手だったという「おばちゃん」も（写真右）

ない。2時間が経過。そろそろあきらめて帰ろうかと思つたとき、2人のおばちゃんと子どもが現れました。最初からうまくいくはずはないと思つていたのに……。さらにこのおばちゃんたち、なんと自分のグラブを持つている！話を聞いてみると、ソロモンでソフトボールが盛んだったころ、この国の代表選手だったそうです。

彼女たちとキャッチボールやバッティングをし、本当に楽しい時間を過ごすことができました。途中で、2人と生徒1人が加わり、ソロモンでのソフトボール初日は5人とはいえ大成功に終わりました。別際に「おばちゃん」の一人が、「ずっとこの日を待っていたの。また、来週ね」と言つて帰っていきま

間を意識して生活をしていません。そのため、時間を守ることが苦手。日の出とともに日覚め、お腹が空いたらご飯を食べる。何かに急かされるのも苦手。つまり、ソロモン人は、約束の時間に大体遅れてくる。そして、みんな悪気なく、「ソロモンタイム」と一言言って終わります。この時間の感覚は慣れるまでは大変ですが、慣れてしまうと何とも穏やかな気持ちで過ごすことができます（笑）。

兎にも角にも、「ソロモンタイム」に負けず、待った甲斐があり、この国のソフトボール選手に会うことができました。

うか悩んでいましたが、ソロモン人の口コミの方は偉大でした。ちなみにソロモンでは、口コミのことを「ココナッツ・ニュース」と言います。沿岸のココナッツが海に実を落とし、海を漂流したその実がほかの島でまた実を付けることから、そう言われています。

ソロモン人の「ココナッツ・ニュース」の力は、マスコミをも動かす。この国で一番有名な新聞がソフトボールのことを記事にしてくれました。また、最初は一人で行ったピラ貼りは、その後は集まってくれた選手たちと一緒にを行いました。その記事掲載の2週間後には、ついに練習参加者が50人を突破しました。自分の予想以上の速度で人が集まりましたが、一方で新たな問題が生じるように……。その問題にどう対応していったかそれは、また次にお伝えしたいと思います。



「ソロモンでソフトボール」の話題が呼び、地元新聞にも取り上げられた

参加者を呼びかけるピラ貼りは参加者たちと一緒に

口コミの影響もあって参加者が30人、そして50人を超える

余談ですが、この国には、「ソロモンタイム」という言葉があります。首都でこそ時計を持つ人もいますが、私もソロモンの田舎に行ったときは「一時間とはなんだらう？」とさえ思われてしまうほど、ソロモン人は時

Information

JICAボランティアへの応募

年齢や目的の違いで4種あるJICAボランティアになるには、「青年海外協力隊」「シニア海外ボランティア」の場合は春と秋の年2回、「日系ボランティア」の場合は秋の年1回の募集時期に募集職種の中から職種を1つ選んで応募。募集職種は、時期によって異なるが看護師、小学校教育、コミュニティ開発から番組制作、経営管理、建築、防災・災害対策などまで多岐の分野に渡る。

ちなみに一次選考（書類審査）では、技術審査、語学力審査、健康診断、二次選考では面接が行われる。5月12日まで春募集を行っている（下記HP参照）。

HP/<http://www.jica.go.jp/volunteer>